

ソクーロフ 『太陽』 の身体

岩本和久

●要約

たとえば、キットラーが指摘しているように、映画とは幻影であり、そこに登場する人物も幽霊に似ることになる。アレクサンドル・ソクーロフは、このような事態を意識させる映画を監督してきた。彼は身体のイメージを通じて、人間の本質を提示しようと試みている。しかし、彼の映画では輪郭や焦点のぼやけた映像の中で、人物は心霊写真に似てしまう。彼が描き出す人物については、生きながら死んでいるという表現もなされている。また、近年の彼は、ミュージアムで死者が復活するという主題を、繰り返し提示している。

昭和天皇を描いた『太陽』でも、ソクーロフは地上の世界を離れた身体を主題としている。この映画は、神とみなされた天皇が人間となる様を描いているが、その変化は身体を通して表現されているのだ。映画では、戦争の終結によって昭和天皇が神から人間に変わると、着衣のスタイルが変化し、その身振りがチャップリンに接近していく。

●キーワード

ソクーロフ

『太陽』

昭和天皇

映画

身体

死